

# 開会行事

日時：8月8日(水) 13:00～14:45

会場：宿志館「グレイスチャペル」

・あいさつ

## ・記念講演 「AI時代における科学・技術に携わる者の使命」

秋山 豊寛 氏(ジャーナリスト/元宇宙飛行士/京都造形芸術大学芸術学部客員教授)

科学者・研究者の存在が社会的に認められている理由は、彼らの活動が人類がより豊かになるうえで意味があると考えられている故です。その活動の出発点が、極めて個人的な好奇心であったとしても、その知的活動が結果として、社会を全体的に豊かにすることがあるという認識があるわけです。

この認識には、何か問題があれば、当然、当事者に「責任」が生じるということでもあります。その研究に税金が使われているという狭い意味での「責任」ではありません。社会に対する「責任」です。

「核兵器」が開発されたあと、物理学者の研究について、「社会的責任」が問題になったことがありましたが、深く掘り下げられたことは、ありませんでした。最近では、原発事故との関連で、その「社会的責任」があらためて問われています。

現代社会は遺伝子組換えを含め、生命化学分野の研究が急速に展開し、その知的探求が社会的受容の限度を超えるのは、時間の問題とまで考えられる状況です。コンピュータについても、人工知能(AI)にかかわる技術的展開が社会にどのような影響があるのかの検討も課題になっています。

「専門家にまかせておく」ことの問題に向き合うことが求められている時代に私たちは生きています。